

寄付完了までの流れ

寄付の方法はAからC 3つからお選びいただけます。

※ふるさと納税のため、福井市在住の方にはお礼の品がございません。
お礼状と受領証明書を郵送いたします。

A Webサイトからのご寄付

① ふるさと納税「ふるさとチョイス」のプロジェクトページにアクセス

スマホで



PCで

[furusato-tax.jp/gcf/2295](https://www.furusato-tax.jp/gcf/2295)

② お申込み手続きを行う

お礼の品なしのご寄付の場合

ふるさと納税で応援 ボタンを選択し、寄付金額入力ページへ移動。寄付金額を入力後、ページに従い入力を進める。

お礼の品ありのご寄付の場合

プロジェクトページ下部のお礼の品を選択し、お礼の品ページを表示。寄付へ進む よりページに従い入力を進める。

③ 決済を完了する

ご利用可能な決済方法は下記の通りです。

【ご利用可能な決済方法】

- ・クレジットカード・Amazon Pay
- ・楽天ペイ・携帯キャリア決済
- ・ペイパル・メルペイ・PayPay
- ・コンビニ支払・ネットバンク支払
- ・ペイジー支払 など

B 金融機関でのお振込み(納付書)によるご寄付

寄付申出書の郵送をご希望の方は、当館までご連絡ください。

① 寄付申出書に必要事項を記載し、郵送またはメールでお申込みください。寄付申出書は、当館受付・当館ホームページで入手いただけます。

▶

② 当館より納付書を送付します。郵送された納付書により右記の指定の金融機関から納付してください。

- ・福井銀行・福邦銀行・北陸銀行
- ・北國銀行・福井信用金庫
- ・越前信用金庫・北陸労働金庫
- ・福井県農業協同組合(本店除く)
- ・福井県信用漁業協同組合連合会
- ・ゆうちょ銀行

寄付の手順やプロジェクトについてのお問い合わせはこちら!

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004

福井県福井市宝永3-12-1

TEL:0776-21-0489

FAX:0776-21-1489



C 当館受付での現金によるご寄付

① 受付に設置している「寄付申出書」に必要事項をご記入ください。

▶

② 受付に「寄付申出書」を提出いただき、ご寄付をおねがいします。

寄付完了

受領証明書をお受け取りください。寄付金控除手続きもお忘れなく!

【寄付金控除の手続き】

寄付金控除を受けるためには、確定申告またはワンストップ特例申請が必要です。給与所得者など確定申告が不要な方で、ふるさと納税の寄付先の自治体が5か所以内の場合、確定申告なしでも寄付金控除が受けられる「ワンストップ特例申請制度」が利用できます。制度を利用する場合には、申請時にワンストップ特例希望にチェックを入れ、寄付後、申請書を提出してください。

※受付で現金によるご寄付をいただいた方には、仮の領収書をお渡しします。正式な受領証明書は後日郵送します。
※お礼の品をご希望された方へは、プロジェクト終了後に順次お送りします。



福井市立郷土歴史博物館とは…
かつての福井城内、現在の福井市中心部に位置する歴史博物館。昭和28年(1953)に開館し、今年で開館70年を迎えます。収蔵品は4万点を超え、越前松平家伝来の什宝、関係文書群である「越葵文庫」など、福井藩ゆかりの方からの寄託・寄贈品が多いことが特徴です。中でも橋本左内関連書翰巻子を含む「福井市春嶽公記念文庫」は、春嶽の自筆日記や記録、諸大名らとの書状など幕末明治期の歴史を知るうえで欠かせない資料群となっています。

橋本左内 レガシー継承 プロジェクト

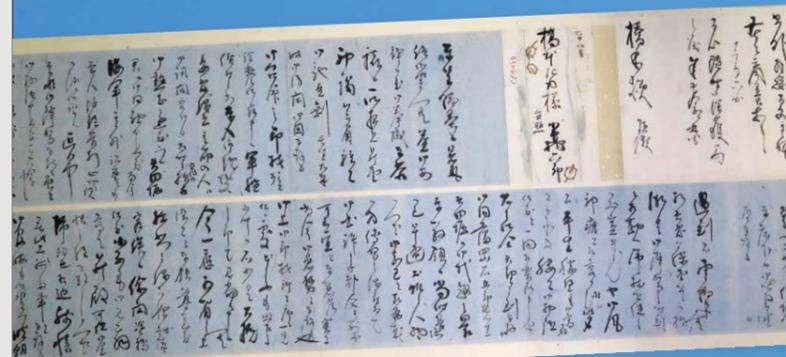
ガバメントクラウドファンディング挑戦中

幕末の志士・橋本左内ゆかりの手紙を修理して展示したい

福井市立郷土歴史博物館

ご支援の詳細はWEBサイトをご覧ください。
<https://www.furusato-tax.jp/gcf/2295>

クラウドファンディングHP
ふるさとチョイス▶



橋本左内関連書翰巻子(福井市立郷土歴史博物館蔵)

募集期間

令和5年 9/28 木 まで

目標金額

8,571,000円

橋本左内(1834~59年)は、福井藩の志士で、幕末日本を代表する政治思想家です。

左内の幅広い学識や信念は福井藩主松平春嶽に認められ、その腹心となり13代将軍の後継者問題にもたずさわることになりました。当館が所蔵する左内ゆかりの手紙の数々からは、左内が全国各地の志士たちに信頼され、政局にも影響を与えたことがうかがわれます。そして現在においても福井では、「左内先生」と呼ばれ、郷土の偉人として親しまれています。

令和6年に左内の生誕190年を迎えることを記念して、福井市立郷土歴史博物館では「左内先生のレガシー継承プロジェクト」を実施します。このプロジェクトでは、左内関連特別展はもちろん、小中学生向けの講座などを企画しています。

しかしながら、左内の活動や幕末の政局をリアルタイムに伝える数々の手紙は明治期に巻物の形にまとめられたものの、傷みが生じています。そこで、将来にわたって継承し、活用するため、左内ゆかりの手紙修理プロジェクトを行います。

ご寄付いただいた方のお名前を当館HPに掲載させていただきます。併せて寄付金額が10,000円以上の方は、令和6年に開催する橋本左内関連特別展図録に掲載させていただきます(希望者のみ)

主催者メッセージ

福井市立郷土歴史博物館名誉館長
越前松平家20代当主 松平宗紀



橋本左内は15歳の時に人生の指針として「啓発録」を著しました。この時の決意は、その後西郷隆盛など多くの幕末の志士たちに大きな影響を与えました。福井県の中学2年生は、この「啓発録」にならって、将来の決意を表明する「立志式」を行い、自らの将来を考えるきっかけにもなっています。ついでには、今後多くの歴史家やこれから育っていく子供たちが、左内の業績を未来にわたって読みとき、研究が続けられるよう当時の手紙類など貴重な資料の修理費用としてご厚志をお願いする次第です。

ご寄付の使い道

橋本左内ゆかりの手紙をまとめた巻物(橋本左内関連書翰巻子)3点の修理

※目標金額を下回った場合も、ご寄付頂いた金額内で橋本左内関連資料の修理を実施します。
※目標金額を上回った場合、学校への出張授業など橋本左内啓発事業の費用に用います。

選べるお礼の品

福井市立郷土歴史博物館では、クラウドファンディング用にお礼の品をご用意しています。

福井のおいしい逸品コース



特選若狭牛ほか

博物館オリジナル歴史満喫コース

福井市立郷土歴史博物館グッズ
三角線神獸鏡チョコ作りワークショップ参加券
橋本左内アクリルスタンドなど



三角線神獸鏡チョコ



橋本左内アクリルスタンド

※ふるさと納税のため福井市在住の方にはお礼の品がございません

ガバメントクラウドファンディングとは?

使い道に共感しふるさと納税を利用して行うクラウドファンディング



ガバメントクラウドファンディング(GCF)とは、ふるさとチョイスがふるさと納税制度を活用して行うクラウドファンディングです。自治体が抱える問題解決のため、ふるさと納税の寄付金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄附を募る仕組みです。

※GCFの詳細はこちら：<https://www.furusato-tax.jp/gcf/about>

ふるさと納税とは?

「あなた」と「ふるさと」をつなぐふるさと納税

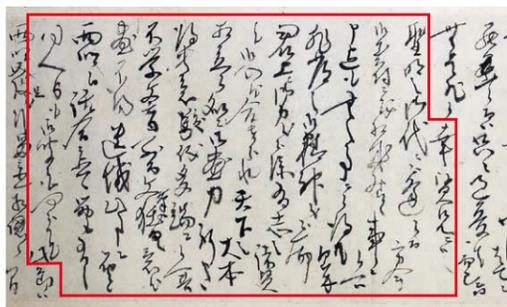


ふるさと納税とは、ふるさとや応援したい自治体に寄附ができる制度のことです。手続きをすると、所得税や住民税の還付・控除が受けられます。ふるさと納税は、自分の選んだ自治体に寄附を行うと、**控除上限額の2,000円を越える部分**について税金が控除されます。

※市内・市外在住を問わず控除の対象になります。

※ふるさと納税の詳細はこちら：<https://www.furusato-tax.jp/about>

左内の手紙をひもとく



(中西学芸員コメント)

長岡監物は、一万五千石の家禄を有し、家老を務めた、熊本藩における重鎮の一人です。その名は藩外にも知られ、徳川斉昭(水戸藩主)、西郷隆盛、吉田松陰(長州藩)とも親交がありました。西郷に託して左内に送られたこの書簡からは、長岡が左内の存在に注目し、同志として交流を持とうとしていた様子が読み取れます。西郷との交流を通じ、左内は福井藩随一の論客として、全国各地の志士たちが頼みとする存在へと成長していきました。



安政四年十一月四日
橋本左内宛長岡監物書翰

西郷隆盛を通じて橋本左内を激励する、熊本藩家老長岡監物

(翻刻)
幸賢兄には聖明之御代に被達候て、方今御出府にも相成居候事候へば申迄も無之事に候へ共、何卒非常之御精神を被励、君上に御力を被添、有志之諸賢と御心を合せられ、天下の大本相立候処に御尽力祈申候、得貴意多端に候得共、不学文言別て文筆拙く意を尽し不得、遺憾此事に御座候、西郷へ話合置候筋も有之、同人よりも御聞取可被下候。

(現代語訳)
幸いにもあなたは松平春嶽公という明君の時代に遭遇し、いまは江戸に滞在しているので私から申すまでもないことなのでしょうが、なにとぞ尋常ならざる気迫でお励みになり、春嶽公にお力添えし、有志の賢人たちと心を合わせ、天下の基礎基本を築かれるようご尽力を祈っております。あなたに申し上げたいことは非常に多くございますが、不学・文言により拙い文章でわたくしの意図をすべてお伝えすることができず、まことに残念でございます。西郷隆盛と話し合ったこともあり、西郷からお聞き取りください。

左内ってこんな人



橋本左内略歴(年齢は数え年)

天保5年(1834) 1歳	福井城下の常盤町(春山2丁目)に生まれる。
弘化2年(1845) 12歳	藩の医学所済世館に入学する。
嘉永元年(1848) 15歳	「啓発録」をあらわす。
嘉永2年(1849) 16歳	大坂の蘭方医緒方洪庵の適塾に入門して蘭学を学ぶ。
嘉永5年(1852) 19歳	父の急死により、家を継いで福井藩医となる。
安政元年(1854) 21歳	江戸へ遊学し、他藩士と交流するようになる。
安政2年(1855) 22歳	福井へ戻り、藩主松平春嶽(慶永)の側近となる。
安政4年(1857) 24歳	藩校明道館(後の福井県立藤島高等学校)の教育改革に取り組む。
安政5年(1858) 25歳	春嶽の命を受けて、13代将軍の後継者問題で江戸・京都方面での政治活動を行う。
安政6年(1859) 26歳	左内の政治活動を見咎めた大老井伊直弼により、安政の大獄で死罪となる。



島田墨仙筆「橋本左内啓発録を著すの図」(福井市立郷土歴史博物館蔵)



福井藩主 松平春嶽

西郷隆盛の左内談

私は先輩では水戸の藤田東湖さん、同じくらいの年齢では橋本左内さんが立派だと思う。この二人の学問や人の大きさは私の到底及ばないほどだ。



薩摩藩士 西郷隆盛

お母さん思いの優しい人。

春嶽から獄中の左内に差し入れられた高価な薬「じゃ香」を飲まずに、自分の事を心配してくれているお母さんに送りました。



橋本左内が母に贈ったじゃ香包(福井市立郷土歴史博物館蔵)

橋本左内関連書翰卷子とは…

(福井市立郷土歴史博物館蔵)

橋本左内が福井藩内外の同志と嘉永5年(1852)から安政6年(1859)の間にやり取りした450通を超える手紙(書翰)をまとめた巻物で、現在福井市立郷土歴史博物館が所蔵しています。手紙の大部分は、左内が13代将軍の後継者問題に携わった安政4・5年に左内に宛てられたものです。混乱した幕末の政局がリアルタイムに記されており、幕末史研究の一級資料であるとともに、変革の時代により良い未来を作ろうと尽力した左内の多方面にわたる活躍を物語っています。

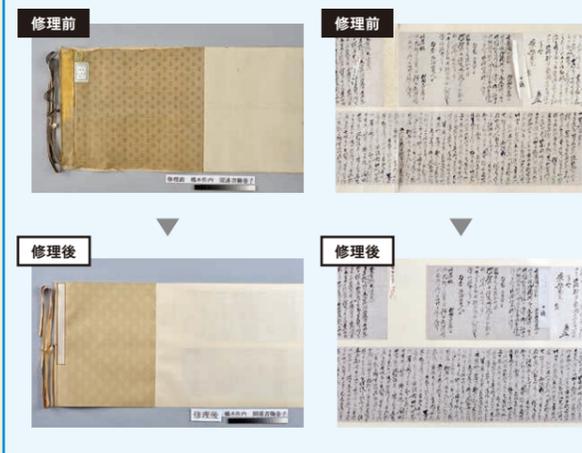
左内の手紙は、左内の弟橋本綱常(初代日本赤十字社病院長)によって明治21年(1888)に8巻の巻物などにまとめられてから約130年が経過し、傷みや劣化が目立ってきました。そのため、修理を実施し、こ

れまで8巻の内5巻までの修理が完了しています。

令和6年(2024)に橋本左内の生誕190年を迎えることから、当館では「左内先生のレガシー継承プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトでは、左内関連の展覧会を開催し、多くの方に福井の偉人・橋本左内の活動を広め、故郷への関心を高めてもらうとともに、手紙のデジタル画像を公開し、幕末史研究に役立てるといった活動を行います。

このプロジェクト達成のためには、未修理の橋本左内関連書翰卷子3巻の修理が不可欠です。この貴重な資料を将来にわたって継承し、活用するため皆様のご協力をお願いします。

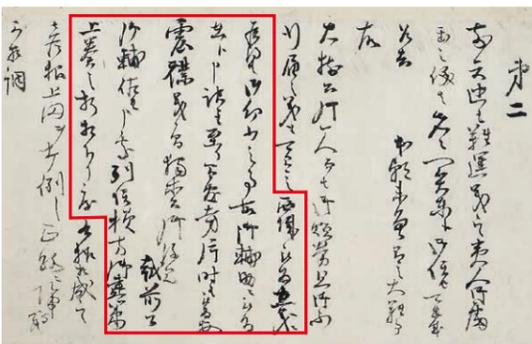
これまでの修理の様子



- 修理方針**
- ◎傷んだ表紙や滑りが悪く摩擦を生じている台紙を新しくします。
 - ◎汚れをきれいにします。
 - ◎虫食い穴など手紙の傷みを繕います。
 - ◎はがれかけている手紙の継ぎ目やその付箋(整理のために明治期に貼られた)を貼りなおします。



- 表紙の布がほつれてボロボロ
- 虫食い穴部分が浮いている
- シミや鉄サビによる汚損
- きつい縦折れがきている
- 付箋がはがれかけている



(山田学芸員コメント)

13代将軍の後継者は徳川慶福に決まり、一橋派は目的を果たせずに終わります。しかし、一橋派の有志たちは、その直後から巻き返しの策を練っていました。西郷の同志で薩摩藩士の堀仲左衛門が左内に宛てた手紙に記された構想は、左内没後の文久元年(1861)に実現を見えています。左内たちが模索した政治のかたちは、幕末の政局に大きな影響を与え、その後の日本に脈々と受け継がれていくのです。



安政五年六月二十七日

橋本左内宛堀仲左衛門書翰

将軍後継に徳川慶福が決まった後に練られた一橋派の巻き返し策

(翻刻)
西城被為在儀に候へ共御幼少の事故、御補助に被為在と申訳にも至る間敷、旁片時も不被為安宸襟儀に候間、独木公御後見、越前公御輔佐と申処、列侯様方御建築上奏之折相下り度。

(現代語訳)
次期将軍慶福公がいらっしゃいますが、ご幼少の身で家定公を補佐するわけにはいかず、また片時であっても(孝明)天皇の御心にご不安を抱かせるわけにはまいりませぬ。そこで、一橋慶喜公を将軍後見に、松平春嶽公を将軍補佐に就けるよう、有志大名の皆様が策を上奏する際に就任の命が下るようになりたいのです。



(藤川学芸員コメント)

13代将軍の後継者問題では、南紀派が推す徳川慶福が本命視されており、一橋慶喜を推す春嶽ら一橋派は不利な立場にありました。左内は西郷隆盛をはじめとする同志たちと協力し、挽回のための政治運動に身を投じます。この手紙からは、左内たちが江戸城大奥の内情を探り、その機密情報を同志たちで共有していた様子がうかがえます。左内は、大奥や朝廷の情報を収集し、幕末政局の最前線で活躍していました。



島田墨仙筆「橋本左内」(福井市立郷土歴史博物館蔵)